

# 中央中学校だより

文責：北九州市立中央中学校 校長 青木哲也

## 【学習指導要領と学力】

- 令和3年度から、新しい学習指導要領が全面実施となりました。少し解説すると
- ・学校では資質・能力を育てる教育をする。
- ・**資質・能力**とは、「**知識及び技能**」「**思考力、判断力、表現力等**」「**学びに向かう力、人間性等**」の三つです。
- ・そのために「**主体的・対話的で深い学び**」となるよう授業改善を進めます。
- ・**言語活動**や**体験活動**、**ICT**等を活用した**学習活動**をします。
- ・「**知識及び技能**」は、単に知っているや直感的にできるだけではなく、**わかってできることや再現性をもってできること**も含まれています。
- ・「**思考力、判断力、表現力等**」は、知識をもとに考え、様々な方法（発表、文章、プレゼン、音楽、芸術、スポーツ）等で**状況に応じ判断し、発信し、説明できること**が求められています。
- ・「**学びに向かう力、人間性等**」とは、他の二つの資質・能力を身につけるために、粘り強く繰り返し、学習に取り組む姿や粘り強く学習する中で、自分で調整しようとする姿と捉えられています。



## 【定期考査に頼り過ぎない評価】

- これまでの学校教育は、定期考査を軸にした**知識中心の学習**や**評価**がほとんどでした。上記のような新しい学力観に基づいて、学習するならば、**定期考査で読み取れる力が、限られていること**がわかります。そこで、**定期考査に頼り過ぎない評価**に、学校は舵を切りました。
- ・これからの評価は
  - 日常の学習の中であるノート整理、ミニテストや単元末テストも知識の定着を図る材料にします。（ノートを出す出さない以上に中身）
  - 授業中の発表や先生とのやり取り、課題への取組状況（宿題等タブレットドリルを含む）
  - 思考したことを記述する学習記録や報告レポート等が大切になります。
  - それらを観点別にA（十分に満足できる）B（概ね満足できる）C（努力を要する）で到達度を表します。**特別によい場合を除き、概ねBかCになると**思われます。すべての人がB以上になることを目指して日々の学習活動が行われます。

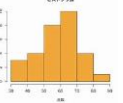


## 【大切になる学校の授業】

- オンライン授業で、講義内容は受け、補うことはできますが、今後、多彩な授業が展開されれば、**日頃の学校での授業を受け、先生の問いに応え、頑張る姿を見てもらうことが一層大切**になってきます。

## 【定期考査の順番について】

- 昔は、定期考査の得点に、様々な点が加算され、順番を付け、その割合に応じて評定がついていました。（**相対評価**）
- ・現在は、到達度を図るものとなり、**絶対評価**の材料として使われています。評価の一部を図るためのものとなっています。
- ・難易度や内容も異なる複数教科の合計得点による順番は、励みになるという意見もありますが、人は数字だけで測れない良い面がたくさんあります。多彩な表現力や良さが、あるにもかかわらず、点数だけがすべてのように言われ、自信を無くす人もたくさんいます。また、答案の中身、特に間違ったところの振り返りが大切なことであるのに、点数と順位の話で終わってしまいがちになります。
- ・そこで、今年からは、**定期考査の順位は、度数分布でおよその位置を示すこと**にしました。**（順番は出さない。）**
- 実力テストのような標準検査的な大きな分母のテストに関しては、進路の材料にもなることから、順位を示すことは継続します。



## 【知識中心から知識を活用する能力重視へ】

- 知識は、タブレットやスマートフォンに、声で話しかけるだけで、声で答えてくれるなどで、得られるようになりました。話した言葉は、その端から文字に変換され、それも言語を超えて翻訳される時代になりました。オンライン会議やオンラインゲームの向こうの人は、国境も時差も越えて、話しているのかもしれない。もしかするとアバターや現実の姿と異なる姿であるかもしれません。
- ・そこで大切なのは、正しい知識、事実なのかを判断して、自分のものとし、その知識を活用し、判断する力です。
- ・経験は大切ですが、その根拠となる考え方や方法を身につけるのも学校時代の大切な学びです。また、学校で教える知識は、基礎の基礎となる部分であるので、点数に結びつかなくても粘り強く身につけようと努力する必要があります。



## 【定期考査後に大切なこと】

- 定期考査は学習したことからしか問題は出ません。まずは、**答案の中身を振り返り**しましょう。その原因は、**授業中聞いていなかった**・**記憶ができていなかった**・**考え方が間違っていた**・**処理する速度が追いつかなかった**。
- ・それによって日頃の取り組み方を、変えて日頃の学習に望みましょう。
- ・皆さんの答案の内容に応じて、先生方の授業レベルも変わり、入試等でも戦える内容に変化していきます。



学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の  
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造  
的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・  
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高  
い理解を図るための学習過程  
の質的改善



※高校教育については、些末な事実的知識の増加が大学入学選抜で求められることが課題になっており、  
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。